



MOTOROLA SOLUTIONS

デジタル簡易無線 登録局 GDR4200

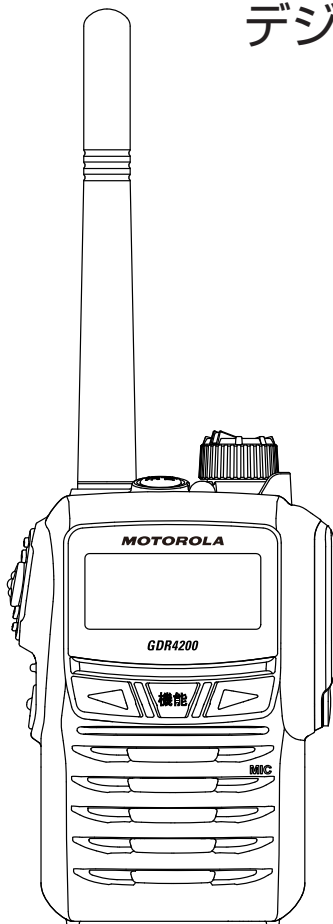
無線局種別コード：3R
4 値 FSK 変調 簡易な業務用

Digital
【資格不要】

デジタル
30
チャンネル

Digital Convenience Radio
3R 登録局

取扱説明書



このトランシーバーは国内専用モデルです。
海外では使用できません。

モトローラ・ソリューションズ株式会社

目次

デジタル簡易無線機の保証と責任.....	1
はじめに	2
安全上のご注意.....	3
正しくご使用いただくために	7
防水性について.....	7
電波干渉について.....	7
通信方式に関して.....	8
デジタル簡易無線局について.....	8
チャンネル構成とコールチャンネル	8
構成品	9
各部の名前と機能.....	10
準備.....	14
アンテナの取り付け	14
ベルトクリップの取り付け	14
電池パックの取り付け / 取り外し.....	15
リチウムイオン電池パックを取り付ける	15
リチウムイオン電池パックを取り外す	15
リチウムイオン電池パックの充電方法.....	16
電池パックを無線機に取り付けた状態で充電する方法	16
電池パック単体で充電する方法.....	16
アルカリ乾電池ケースの使い方	17
基本的な使い方.....	18
キーロック機能.....	19
通信方式について	19
設定のリセットについて	19
UC（ユーザーコード）通信.....	20
UC（ユーザーコード）通信の設定方法.....	21
個別通信	22
個別通信の設定方法	23
個別通信の呼び出し方法の設定.....	24
呼び出しを受けたとき	27
簡易メニュー	28
通信時に動作する機能について	29
キャリアセンス機能.....	29
通話中の「ピピピ」音（連続送信時間制限）.....	29
ヒートプロテクション（高温時の保護機能）.....	29
各種の便利な機能.....	30
オートチャンネルモード	30
送信出力設定.....	32
ミュート（消音機能）.....	32
秘話通信機能.....	33
通信の設定機能 ～セットモード～	34
アクセサリの取り付け	44
故障かな？と思う前に	45
定格.....	46
索引.....	47

デジタル簡易無線機の保証と責任

I. 保証対象及び保証期間：

本デジタル簡易無線機器は、モトローラ・ソリューションズ株式会社（以下「当社」といいます）で製造されたものです。

当社は、正常な使用状態で下記のデジタル簡易無線機器（以下「製品」といいます）の材料上又は製造上の欠陥に対し、ご購入日より以下に示す保証期間内の保証を行います。

無線機本体 2年間
アクセサリ（電池パック、アンテナ、充電器、ベルトクリップ等を含む） 1年間

当社は本保証規定に従い、保証期間内は無料で製品の修理（純正部品を用いて）、交換を致します。本体またはアクセサリの保証期間に関しましては、お客様がご購入になった製品の保証期間で算定されます。交換した製品または部品は当社の所有となります。

本保証書は製品ご購入者に限り有効であり、第三者に譲渡されるものではありません。

当社役員による署名付きの書面での同意がある場合をのぞき、本保証書への追加及び変更に対して、当社はいかなる義務及び責任を負いません。当社と製品ご購入者の間で個別の同意がない限り、当社は製品の取り付け、メンテナンス又はサービスの保証は行いません。当社は、製品に装着又は接続して使用される当社及びモトローラ供給以外のアクセサリを使用した製品の運用に対し、いかなる責任も負いません。

通信システムで本製品が使用される場合、当社、そのシステム全体、サービスエリア、運用等をまとめて本保証規定で保証するものではありません。

II. 保証規定：

本保証書は、製品に対する当社の責任と保証を定めたもので、一切の保証は保証期間内に限定されます。

当社は当該製品の使用もしくは不使用に起因するご購入者の被る逸失利益、業務の中断、機会損失やこれらに類する損害、または二次的損害等についての責任を負いません。

III. 以下は保証対象外となります：

- A) 製品を正常かつ通常の使用方法でお取り扱いにならないことよって生じた故障及び損傷。
- B) 誤った、又は乱暴なお取り扱い、事故、腐食、火災、水害、又は放置によって生じた故障及び損傷。
- C) 誤った、又は認可されていないテスト、使用、メンテナンス、サービス、修理、取り付け、変更、修正、又は調整によって生じた故障及び損傷。
- D) 材料上又は製作上の欠陥に直接起因する以外の理由で生じたアンテナの破損及び損傷。
- E) 説明書に記載の使用方法に反するお取り扱いを受けた製品。
- F) 製品の性能に支障をきたす、又は正常な保証検査及び補償請求確認のための製品テストを妨げるような、認可されていない改造、加工、分解、純正でない部品又は電池の使用と修理（当社が認可していない装置を使った製品に対する追加を含む）がなされた製品。
- G) 製造番号が取り除かれた、又は製造番号が判読できない製品。
- H) 利用者の修理が認められていない部品又はモジュールに付いたシールが外れている製品。
- I) 修理品発送に対する送料。
- J) 製品のソフトウェア／ファームウェアに不法又は無許可の変更が加えられている製品。
- K) 製品の運用に影響を与えない、製品の表面に付いた傷、又は外観上の損傷。
- L) 正常なご使用においての自然消耗、摩耗。
- M) 当社でプログラムされていないメモリーモジュール。
- N) 保証期間を過ぎた保証請求。

IV. 特許及びソフトウェア規定：

当社供給以外のソフトウェア、装置一式又はその一部を備えた製品又は部品の組み合わせに基づいた特許権の侵害請求に関して一切の責任を負いません。

また、当社は製品に装着又は接続する、モトローラ供給以外の付属品又はソフトウェアの使用に対していかなる責任も負いません。上記は、製品又は部品に関し、特許権の侵害に関する当社の全責任を提示したものです。法律により、版權で保護された当社のソフトウェアのコピー

制作及びコピー流通の占有権など、当社の特定の占有権は保護されています。当社のソフトウェアは販売時に組み込まれている製品内でのみ使用されるものであり、当該製品の当該ソフトウェアはいかなる交換、コピー、流通、修正及び派生物の製造に使用されるものではありません。当該当社ソフトウェアの無制限の変更、修正、再生、流通、リバーシエンジニアリング及び当該当社ソフトウェアが有する諸権利の行使などは禁じられています。当社の特許権又は著作権の元でない限り、いかなる許可も含意及び禁反言によって認められるものではありません。

V. 保証サービスの受け方：

保証サービスを受けるためには、ご購入を証明するもの（ご購入日と製品製造番号が明記されているもの）を添え、ご購入の販売店までご持参又は郵送してください。送料、保険はお客様のご負担になります。

VI. お問い合わせ先：

本保証規定に関してのご不明な点は下記までご連絡下さい。

モトローラ・ソリューションズ株式会社

PCR 事業部

電話 0120-187-300 http://www.motorolasolutions.com/ja_jp.html

© Copyright 2016 Motorola Solutions, Inc. All rights reserved.

はじめに

このたびはモトローラのデジタル簡易無線機「GDR4200」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は GDR4200 の標準的な操作方法について説明した取扱説明書です。ご使用前に必ずお読みください。

本機をご使用になるには、電波法で定められている「無線局登録申請」を行い、登録状の交付を受けることが必要です。

本機をご使用になる前に、別紙「無線局登録申請の手引き」を参考にして、必ず登録申請を行い、登録状の交付を受けてください。

注意

登録状の交付を受けずに本機を運用し、電波を出した場合、電波法第9章 110 条に定められた罰則（一年以下の懲役又は百万円以下の罰金）が適用されますので、必ず無線局登録申請を行い、登録状の交付を受けた後に運用を行ってください。

● ご利用にあたって

- ◎ 本機は、技術基準適合証明を取得し、ARIB 規格に準拠していますので、他社のデジタル簡易トランシーバー（種別コード「3R」）との互換性を確保しています。ARIB 規格以外の機能の互換性はありません。
- ◎ 本体背面に貼り付けてある“証明ラベル”を剥がしたり、“分解”や“改造”を行うことは、法律で禁止されています。
- ◎ 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります。
- ◎ 本説明書には、ご購入時の状態（初期値）の標準的な設定での説明が記載されています。

● 免責事項

- ◎ 取扱説明書に記載の使用方法とは異なる使用方法により発生した故障、障害、損害について、当社は一切責任を負いません。
- ◎ 本機を使用して生じた障害や損害について、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いません。

●ご注意

- ・ 通話は、無線局免許状に記載されている目的、通信の相手方および通信事項の範囲内で行ってください。ただし、人命の救助、洪水、火災などの災害時に、人命にかかわる通信を行うときはこのような制限はありません。
- ・ 他人から頼まれて通信したり、他人の用件のために無線機を貸して使用することは電波法令で禁じられています。
- ・ 他人の通話を聞いて、これを漏らしたり悪用することは電波法令で禁じられています。
- ・ 本機は電波法令で定められた技術基準に適合（合格）していますので、分解や改造は電波法令で禁じられています。

●本文中のマークの意味は次のようになっています。

	警告	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
	注意	この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

安全上のご注意

●製品の安全性と電磁波による影響（携帯型無線機用）

一般的な人口の、規制されていない環境における携帯型無線機の電磁エネルギー被曝および製品の安全性に関するガイド

本機を他の使用者に譲渡する場合には、使用者は、必ず本機の電磁波についての取り扱いが書かれた説明書（本書）を添えてください。

この無線機は、離れた2つの間の通信を提供するため、無線周波数帯の中の電磁エネルギー、すなわち電波を使用しています。無線通信用のエネルギーである高周波エネルギーは、電磁エネルギーの一形態であり、例えば日光やX線もその1つに含まれます。しかしながら、高周波エネルギーは、不適切に使用された場合に生物学的損傷を引き起こす可能性が高い電磁エネルギーと同じように考える必要はありません。（例えば、X線の非常に高いレベルは、組織および遺伝物質を損傷する可能性があります。）

モトローラの無線機は、以下の高周波エネルギーや電磁エネルギーのガイドラインに準拠しています。

- ・ 国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）

無線通信のための高周波エネルギーを安全に使用するため、科学、工学、医学、健康、そして産業分野に詳しい専門家が協力し、国際的な基準を策定しています。この基準はビジネスや一般的に使用される無線設備から放射される電波の推奨される値を提示しています。この値については、保護のため通常かなり余裕をもった値になっています。

すべてのモトローラの無線機は、こうした国際基準の値を満たすように設計、製造、およびテストされています。さらに、無線機の製造業者も無線機を使用されるお客様に安全にお使いいただけるような操作手順をお勧めしています。これらは高周波エネルギーについての知識をお客様にご理解いただき、無線機を安全に使用方法についての簡単な手順を提供するために非常に重要なことです。

電磁波エネルギー曝露限度（電波が人体に与える影響において、人体が受けても差し支えない限度）について国際基準に準拠するには、以下の手順に従ってください。

- ・電磁波エネルギー曝露は、アンテナからの距離の増加と共に減少します。
- ・送信している間、人体曝露を与えています。連続送信するなど、50%送信比率を超えないようにしてください。
- ・無線機本体やアンテナから鼻や唇が 2.5cm 以上離れた状態で、無線機のマイクが顔の前に来るようにして持ちます。アンテナは目から離れた状態にしておく必要があります。
- ・モトローラ純正のアクセサリをご使用ください。



⚠ 注意 高周波エネルギー曝露は、アンテナからの距離の増加と共に減少します。

- ・装着してのご使用について。人体に装着するときは、必ず、モトローラ純正の本機専用のクリップ、ホルダー、ホルスター、またはケースに装着してお使いください。モトローラ純正品以外のアクセサリをご使用になると、高周波曝露の限界値を超える曝露レベルになる場合がありますので、純正の装着用アクセサリをお使いください。
- ・アンテナ、バッテリー、オーディオアクセサリについては、必ずモトローラ純正の付属品または交換用品をお使いください。純正品以外のアンテナ、バッテリー、アクセサリ（有線または無線）をご使用になると、適用される高周波曝露に関するガイドライン（ICNIRP）を超える場合があります。

航空機 / 医療機関について

機内、病院、および医療機関では外部電磁波エネルギーの影響を受けやすい機器を使用していることがあります。電源を切るよう指示されている場所では無線機の電源を切ってください。

ペースメーカー

米国先進医療技術工業会 (Advanced Medical Technology Association)(AdvaMed) は、無線機とペースメーカーの間の距離を少なくとも 15cm は維持することを推奨しています。ペースメーカーを着用されている方は本機のご使用を控えてください。やむを得ず無線機を利用する場合は必ず、無線機を着用のペースメーカーから少なくとも 15cm 離しておいてください。

何らかの理由により、妨害が生じていることが疑われる場合には、すぐに無線機のスイッチをオフにしてください。

無線機からの干渉の潜在的なリスクについて、医師に相談してください（不十分シールド医療機器が干渉を受けやすくなる場合があります）。

補聴器

無線機は、一部の補聴器に干渉することがあります。干渉する場合は、使用している補聴器メーカーに相談してください。

その他の医療機器

その他の個人用医療機器を使用する場合は、メーカーに相談してください。

安全運転について

運転中に無線機を使用しないでください。

道路交通法、第 71 条第 5 号の 5 の規定により運転中に無線機を手を持って使用することは禁止されています。

事故の原因になりますので、まず安全な路肩に寄せ、停車してから、通信をおこなってください。または、ハンズフリー用純正アクセサリのご使用を推奨しています。

音量について

大きな音が原因による聴覚の障害については、最初は自覚することなく、後になって感じられることがあります。長時間大音量で受信すると聴覚に影響を与えますので、最小限音量で、また短時間で使用してください。

聴覚を保護するには、次の事をお守りください。

- ・最低限必要な音量で使用してください。
- ・周囲の騒音で聞こえない時のみ、音量を大きくしてください。
- ・ヘッドセットまたはイヤホンを接続する時は、音量を下げてください。
- ・長時間、大音量でヘッドセットやイヤホンを使用しないでください。
- ・ヘッドセットまたはイヤホンなしで無線機を使用する場合は、直接耳にスピーカーをあてないでください。

エアーバッグ

- 警告**
- ・エアーバッグの配線との干渉を避けるために、無線機の設置場所を、車両の製造元マニュアルを参照してください。
 - ・エアーバッグの部分、またはエアーバッグが膨らむ場所に無線機を置かないでください。エアーバッグは強い力で膨らみます。無線機がエアーバッグの膨らむ場所に置かれている場合、エアーバッグが膨らみますと無線機が強い力で押され、車の搭乗者がけがをする原因となります。

発破区域での使用

- 警告**
- ・発破区域および雷管の近くでは無線機の電源を切ってください。
 - ・爆発に影響を与えないよう、「発破危険」のように表示されている場所では、無線機の電源を切ってください。
 - ・爆発の恐れのある場所に立ち入る場合、立ち入る前に無線機の電源を切ってください。
 - ・爆発のおそれのある場所とは、ボートのデッキの下などの燃料補給・貯蔵場所、燃料や化学薬品の運送または貯蔵施設、および、空気中に穀物、ほこりや金属粉末などの化学物質や粒子が含まれている領域など、危険なガス、蒸気、または埃がある可能性があります、危険であると分類され、とりわけ爆発のおそれのある場所のことを言います。
 - ・爆発の可能性がある場所での、取り付け、取り外し、および充電をしないでください。火花が散ることによってそれが爆発や火災の原因となり、身体的な損傷や死亡につながる恐れがあります。

アンテナ

- 注意**
- アンテナが壊れている無線機は使用しないでください。
壊れているアンテナの導体が皮膚に触れ、送信した場合、軽いやけどをすることがあります。

電池パック

- 注意**
- すべての電池は、物的損害または傷害を引き起こす可能性があります。
- 電池パックは、金属製のものと共にポケットなどに入れたり金属ケースに入れないでください。端子が他の金属製のものによりショートし、火傷、発火の危険があります。危険環境下で電池パックを交換したり、充電しないでください。電池パックの脱着時に端子から火花が飛び、爆発や火災の原因になることがあります。不正な修理をおこなったり、ラベルの貼り替えを行いますと、その機器の認定が無効となることがあります。

静電気について

- 注意**
- 静電気が発生しやすい場所・条件でイヤホンをご使用される場合、静電気によって耳の皮膚に電気ショックを感じる場合があります。そのような場合はイヤホンを使用しないようにしてください。

アクセサリーについて

- 注意**
- 当社製機器は、ホームページのリストに掲載されるアクセサリが認定機関によって認定されています。アクセサリとの組み合わせは、厳密に遵守する必要があります。
- ・接触不良の原因となりますので、アクセサリを使用しないときには、アクセサリコネクタカバー / フタを付けてご使用ください。

●その他の安全上の注意

運用場所について

警告 ゴルフ場などの野外で無線機を使用中に雷鳴が聞こえた時は、落雷のおそれがありますので無線機を使用しないでください。

その他電子機器との混信

警告 正しく設置されていない、また、十分にシールドされていない自動車の電子操作系統や娯楽用機器など、電磁波によって影響を受ける場合があります。その場合、それぞれの販売メーカーまたは販売店に、それらの設備が外部からの電磁波から適切にシールドされているかどうかご確認ください。また、自動車などに別途追加した設備についてもご確認ください。

衝撃

警告 強い衝撃をあたえたり、投げつけたりしないでください。アンテナが破損することがありますので、無線機を持つときは、アンテナをつかまないでください。

使用環境

注意

- ・ 異常に温度が高くなるところや、直接雨や水のかかる場所に放置しないでください。変形や故障の原因になる場合があります。
- ・ 直射日光のあたる場所（自動車内）や高温になる所、極端な低温環境に無線機本体を置かないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

●電池パックの取扱いについて

重要： 思わぬ怪我や損害を避けるために、電池パックの保管と取扱は適切に行ってください。

ほとんどの電池パックの問題は、不適切に取り扱ったか、もしくはダメージのある電池パックを使用し続けたことに原因があります。

下記のガイドラインに従ってご利用ください。

- 注意**
- ・ 高温になる車の中などに充電電池を放置しないでください。
 - ・ 電池パックを落とさないでください。電池パックを落とすことにより、特に固い床などでは、ダメージの潜在的な原因となります。
 - ・ 分解、押しつぶす、穴をあける、裁断する、もしくは電池パックの形状を変更するような試みはお止めください。
 - ・ 電池パックを水につからないようにしてください。水は電池パック内部の回路に侵入する場合があります、腐食などを引き起こします。
 - ・ 金属類を電池パックに触れないようにしてください。もし金属類、たとえば貴金属装飾品などが端子に長期間触れたままの場合、電池パックが高温になる場合があります。
 - ・ 高温になる熱源には近づけないでください。過度の熱は無線機や電池パックにダメージを与えます。高温はまた、電池パックが故障したり、液漏れ、膨張の原因になる場合があります。
 - ・ 濡れたり湿った電池パックをドライヤーや電子レンジのような家電製品、もしくは熱源などで乾かすのは決してしないでください。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form.

U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

正しくご使用いただくために

- ◎ 本機にマイクロホンなどを接続する際は、必ず当社純正アクセサリを使用してください。当社純正品以外のアクセサリを使用すると、故障や破損の原因になります。当社純正品以外のアクセサリの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、弊社では一切責任を負いません。
- ◎ リチウムイオン電池パック“PMNN4536A”を充電する際は、必ず当社指定の充電器を使用してください。当社指定以外の充電器を使用すると、火災や故障の原因になります。
- ◎ 外部マイクロホンを取り付けた際は、コードを強く引き伸ばしたままにしないでください。コードの断線などにより、故障の原因になります。
- ◎ 直射日光や熱風の当たる場所、水のかかる場所に放置しないでください。
- ◎ 電波法により、無線機やマイクを分解・改造・指定以外の装置を接続することは禁じられています。
- ◎ 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避けてください。
- ◎ 通話する際は、マイクから約5センチ離して普通の声量で話してください。マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声割れたり、歪むことがあります。
- ◎ 運用が終わりましたら、電池パックが消耗しないように、無線機の電源を切ってください。
- ◎ 内部の点検・修理は、お買い上げいただきました販売店にご依頼ください。

防水性能について

本機は、IEC 国際規格 IP67 相当（防塵等級 6^{*1}、防水等級 7^{*2}）の防塵、防水性能を有しています。この性能を永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

- ◎ キーやボタンのラバー、アクセサリ端子のダストカバー、電池パック接合部分などに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
- ◎ 海水砂泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水の溜め水で濯ぎ、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- ◎ 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
- ◎ 本機は、水中での使用はできません。

※ 1：粉塵が内部に侵入しない。

※ 2：水深 1 m の水没に 30 分間没しても有害な影響を受けないこと。

電波干渉について

近距離で複数のグループの人が、複数のチャンネルを使用して通話するような場合に、隣り合うチャンネル同士の電波の干渉により、通話に支障が生じることがあります。このような時は、隣り合うチャンネル（例：“CH01”と“CH02”）でのご使用を避けていただき、離れたチャンネルを設定していただくことで、干渉を軽減することができます。

通信方式に関して

- ◎ 本機は、デジタル簡易無線機（登録局）として認証を取得しています。無線機の登録及び開設申請をすることでご利用いただけます。
- ◎ 登録申請および開設申請につきましてはご購入いただきました販売店、または弊社 PCR 事業部までお問い合わせください。
- ◎ 本機は、ARIB 規格に準拠していますので、他のデジタル簡易無線機（種別コード「3R」）との互換性を確保しています。
※ ARIB 規格以外の機能の互換性はありません。

デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線局の登録局は、下表のように分類されています。

種別	ARIB 種別コード	周波数	チャンネル数	使用範囲
登録局	3R	351MHz	30	陸上及び 日本周辺海域
登録局 (上空利用)	3S		5	陸上及びその上空、 日本周辺海域

本機は種別コード「3R」の“登録局”として開発されたもので、スカイスポーツ等、上空でのご利用はできません。

チャンネル構成とコールチャンネル

本機のチャンネル構成(ARIB無線設備の種別コード「3R」)

- ◎ チャンネル構成(通話チャンネル)

“CH01”～“CH30”の30 チャンネルが利用可能です。

- ◎ コールチャンネル

“呼出CH”(CH15)は「コールチャンネル」に設定されています。

コールチャンネルでは、ユーザーコード(21ページ参照)は自動的に“000”に設定され、秘話通信機能(33ページ参照)は自動的に解除されますので、ARIB規格で定めている「呼出用チャンネル」として、ご利用いただけます。

注意

コールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。

補足

コールチャンネルでは簡易メニューでユーザーコードおよび秘話通信の設定をすることができません。

- ◎ 上空用チャンネルモニター(受信専用)

セットモードの「S07 使用CH」(38ページ参照)を“陸・海・空”に設定すると、上空用チャンネルの5チャンネル(CHS1～CHS5)を受信することができます。

上空用チャンネルで[PTT]ボタンを押すと「ビピビツ」と警告音とディスプレイに“TX INHIBIT”が反転表示され送信できません。

構成品

◎ 無線機本体 (GDR4200)	1
◎ アンテナ※ (AN000242A01)	1
◎ ベルトクリップ (無線機本体に取り付けられています)	1
◎ リチウムイオン電池パック (PMNN4536A)	1
◎ 急速充電器 (PMPN4224A)	1
◎ 急速充電器用 A C アダプター (PS000042A41)	1
◎ ダストカバー (無線機本体に取り付けられています)	1
◎ 取扱説明書 (本書)	1
◎ 無線局登録申請書	一式
◎ 無線局登録申請の手引き	1

※ λ /4 短縮型、利得 2.14dB 以下

・ 不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

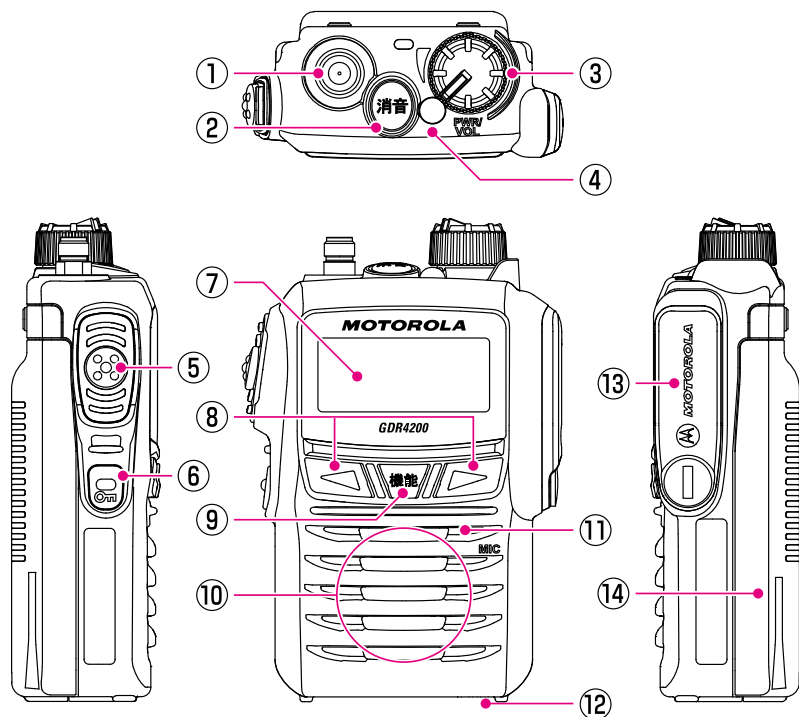
電池パックはリサイクルできます。

電池パックが不要になった場合は廃棄せず、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。



各部の名前と機能

本体 (GDR4200)



① アンテナコネクター (14ページ参照)

アンテナを接続します。

② 消音キー (32ページ参照)

押すと画面に大きく“MUTE”と表示され、受信音をミュート（消音）できます。再度このキーを押すか、または他のキーを押したり送信するとミュートが解除されます。

簡易メニューおよびセットモードで、このキーを押すと変更操作をキャンセルして設定値は保存せずに1つ前に戻ります。

③ PWR/VOLツマミ (18ページ参照)

電源のON/OFFと音量の調節をします。

④ LEDインジケータ

通信モードや状態などにより“緑色”または“青色”の点滅、送信中は“赤色”に点灯します。バッテリー消耗時は、“赤色”で点滅します。

LED インジケータの色・状態	通信（動作）状態
緑色点滅	通信受信
青色点滅	秘話通信受信
赤色点灯	送信中
赤色点滅	電池パックが空になったとき

⑤ PTT(通話)ボタン (18ページ参照)

[PTT]ボタンを押すと、無線機は送信状態になります。放すと待ち受け/受信状態になります。

簡易メニューで[PTT]ボタンを押すと変更操作をキャンセルして設定値は保存せずにメニューを抜けてCH表示に戻ります。

⑥ キーロックキー (19ページ参照)

◎ 約2秒以上押すと、誤って各種キーに触れても設定が変わらないようにロックすることができます。もう一度約2秒以上押すとロック解除となります。

◎ 短く押すと、約2秒間ディスプレイと各キーの照明が点灯します。

⑦ フルドットディスプレイ (次ページ参照)

⑧ ◀/▶キー

◎ チャンネル切替えをします。

◎ 個別通信の宛先メニュー表示中に呼び出し方法「⇄ 個別 ⇄ グループ ⇄ 一斉 (ALL) ⇄ 個別 ⇄」(23ページ参照)を選択をします。

⑨ 機能キー

◎ 約2秒以上押すと、“簡易メニュー”画面になります。

◎ [機能]キーを押しながら、電源を“オン”にするとセットモードになります。

⑩ スピーカー

⑪ マイク

マイクと口元の間隔は5cm位が適当で、普通の声で話します。この穴は塞がないようにしてください。

⑫ ノイズキャンセリングマイク

周囲の騒音を抑えて、明瞭な音声を送信するために設けられています。この穴は塞がないようにしてください。

⑬ アクセサリコネクタ端子 (44ページ参照)

スピーカーマイクなどのアクセサリを接続します。

⑭ リチウムイオン電池パック (15、16ページ参照)

フルドットディスプレイ



← アイコン表示部

← チャンネル / モード等表示部

← ユーザーコード / 不在表示 / 個別選択呼出コード等表示部

	アンテナ（電界強度表示 / 送信出力表示） 受信時：受信している電波の強さに応じて4段階で表示します。 送信時：送信出力を3段階で表示します。 ：H（2.5W 出力） ：N（2W 出力） ：L（1 W出力）	
	送信出力 設定されている送信出力を表示します。 H：High Power（2.5W 出力） N：Normal Power（2W 出力）※ L：Low Power（1 W出力） R：受信専用チャンネル（送信できません） ※工場出荷時はN（2W出力）に設定されています。	
	キーロック 設定されたキーやツマミがロックされ、キーロック機能が動作しているときに点灯します。	
	電池バック残量 電池バックの残量を5段階で表示します。 電池が消耗すると、ディスプレイの電池マークが右記のように変化します。 電池マークが点滅し、LED インジケータが赤色に点滅した時は、直ちに充電を行ってください。	：十分使えます ：まだ使えます ：残りわずかです ：空になりました ：すぐに充電してください
	オートチャンネルモード UC（ユーザーコード）通信時に混信した場合、他の空きチャンネルに自動的に移動するオートチャンネルモードが“ON”のときに点灯します。	

秘	秘話 秘話通信機能が“ON”のときに点灯します。
上	上空用チャンネル 上空用チャンネル（受信専用）が選択されているときに点灯します。
不在	不在 個別通信（個別呼出、グループ呼出、一斉呼出）の受信時に応答しなかった場合に、相手局 ID と不在表示が点滅します。
UC □□□	ユーザーコード 設定している 3 桁のユーザーコード（000～511）を表示します。
個別 □□□	個別呼出 個別通信の個別呼出に設定しているときに点灯し、個別呼出 ID（001～200）を表示します。 個別通信の個別呼出を受信したときに点灯し、相手局の自局 ID（001～200）を表示します。
グループ □□□	グループ呼出 個別通信のグループ呼出に設定しているときに点灯し、グループ呼出 ID（001～030）を表示します。 また、グループ呼出を受信したときに点灯し、呼び出されたグループの呼出 ID（001～030）を表示します。
ALL	一斉呼出（ALL） 個別通信の一斉呼出に設定しているとき、また、一斉呼出を受信したときに点灯します。

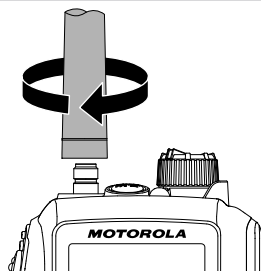
準備

アンテナの取り付け

アンテナのコネクタに近い太い部分を持ち、時計回りにしっかりと止まるまで回します。

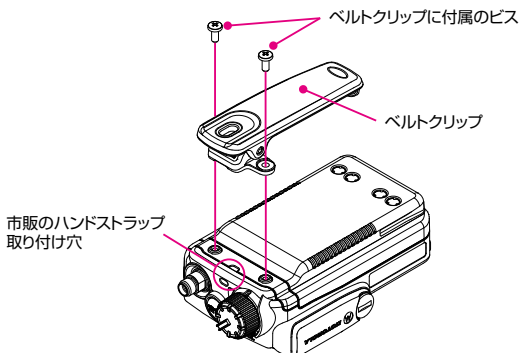
注意

- アンテナの取り付け/取り外し時には、アンテナの上部を持って回さないでください。アンテナ内部で断線して故障することがあります。
- アンテナを外した状態で送信しないでください。送信回路が破損することがあります。

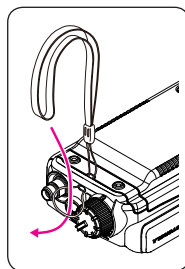


ベルトクリップの取り付け

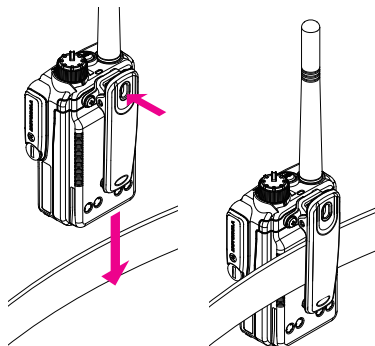
- ① ベルトクリップに付属しているビス2本で、ベルトクリップを取り付けます。



市販のハンドストラップの
取り付け



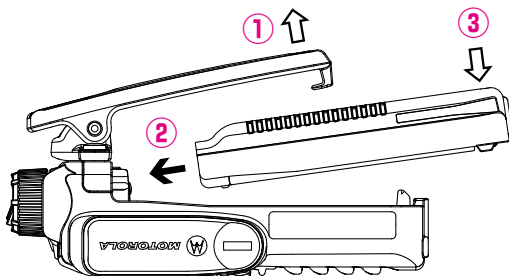
ベルトクリップの先端を指で押し
ながら、ベルトへ確実に取り付
けてください。



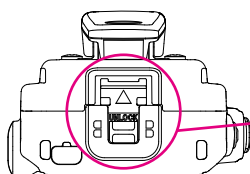
電池パックの取り付け / 取り外し

リチウムイオン電池パックを取り付ける

- ① ベルトクリップを取り付けている場合は矢印の方向に上げます。
- ② 電池パックの底面を押しながらスライドさせます。
- ③ 電池パックの背面を押して、「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。



- ④ 無線機本体の底面にある電池パックロックプレートに「カチッ」と音がするまで確実にロックの位置にスライドさせます。



電池パック ロックプレート



アンロック



ロック

注意

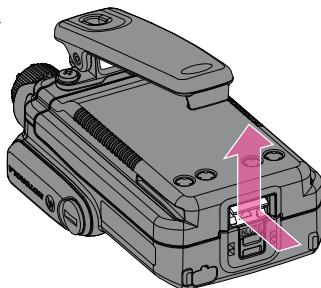
電池パックロックプレートを確実にロックしていないと、落下事故や故障の原因になります。

リチウムイオン電池パックを取り外す

- ① 無線機本体の底面にある電池パックロックプレートに「カチッ」と音がするまで確実にアンロックの位置にスライドさせます。
- ② 電池パック底面のラッチを指で摘みながら、電池パックを引き上げます。

注意

- ロックを外す時は、指や爪などを傷めないよう、十分に注意してください。
- ベルトクリップを取り付けている場合は上げながら、電池パックを引き上げてください。
- 無線機や電池パックを落下させないよう、十分に注意してください。



リチウムイオン電池パックの充電方法

付属品の急速充電器“PMPN4224A”を使用して、リチウムイオン電池パックを充電します。充電方法は、「電池パックを無線機に取り付けた状態で充電する方法」と「電池パック単体で充電する方法」があります。電池パックを十分に使い切った状態での充電時間は約3.5時間です。

注意 電池パックは“+5℃～+35℃”の温度範囲内で充電してください。この温度範囲以外で充電すると、漏液や発熱したり、電池の性能や寿命を低下させる原因になります。

電池パックを無線機に取り付けた状態で充電する方法

① 急速充電器の背面にあるジャックに、ACアダプター“PS000042A41”のコネクターを差し込み、電源プラグをコンセント(AC 100V)に接続します。

② 電源を切った無線機を急速充電器に挿し込みます。急速充電器の赤色のランプが点灯し、充電を開始します。

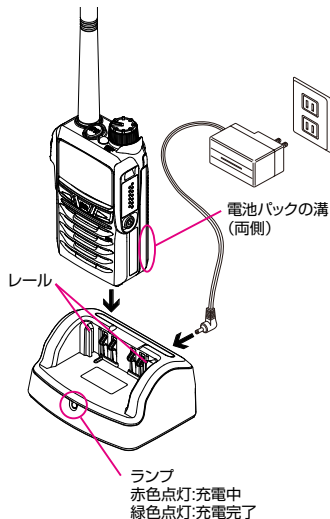
補足 電池パックの溝を急速充電器の内側のレールに合わせて差し込みます。

③ 充電が完了するとランプは赤色から緑色に変わります。

注意 長時間充電したままにしておくと、リチウムイオン電池パックを劣化させることがあります。

④ 充電が完了したら無線機を急速充電器から取り外し、ACアダプターをコンセントから外してください。

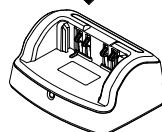
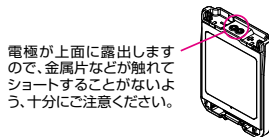
補足 リチウムイオン電池パックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、充電してからお使いください。



電池パック単体で充電する方法

○ 電池パックの溝を急速充電器の内側のレールに合わせて挿し込みます。急速充電器の赤色のランプが点灯し、充電を開始します。

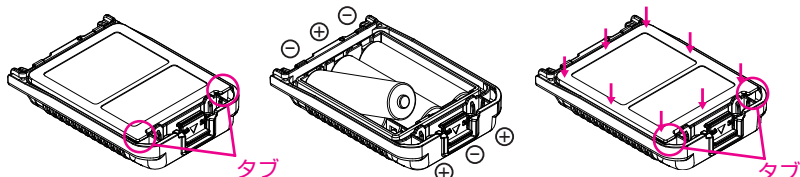
○ 充電が完了するとランプは赤色から緑色に変わります。



アルカリ乾電池ケースの使い方

アルカリ乾電池ケース(HN001139A01)を使うと、単三形アルカリ乾電池3本を電源として使用できます。

- ① 乾電池ケース裏側のフタのタブをつまみ、フタを開けます。
- ② 電池の極性に注意しながら、単三形アルカリ乾電池3本を乾電池ケースに入れます。
- ③ フタの向きに注意して、フタを乾電池ケースの溝に合わせてはめていきます。
- ④ 浮いている部分がないように、指でフタをしっかりと押し乾電池ケースの溝にはめます。



注意

アルカリ乾電池ケース(HN001139A01)を使用している場合、送信出力は自動的にLow(1W)に固定され送信出力を変更することはできません。

補足

- マンガン乾電池は使用できません。また、充電式の単三形電池も使用できません。
- 新しい電池と使用した電池や古い電池、銘柄や種類の異なる電池などを混ぜて使用しないでください。乾電池が漏液、発熱、破裂するおそれがあります。
- 長時間本機を使用しない場合は、乾電池ケースから乾電池を取り外してください。
- 乾電池ケースの端子や電極が汚れていると、接触不良で本機が正しく動作しなくなったり、発熱や破裂などの原因となります。端子や電極が汚れた場合は、乾いた布や綿棒で清掃してください。

電池の消耗について

電池が消耗すると、ディスプレイの電池マーク(電池残量表示)が右記のように変化します。

ローバッテリーアラート機能

電池が空になると電池マークが点滅し、さらにLEDインジケータが赤色に点滅します。その時は、直ちに充電を行ってください。

- 十分使えます
- まだ使えます
- 残りわずかです
- 空になりました
- すぐに充電してください

電池持続時間*

電池パック / アルカリ乾電池ケース	送信出力		
	High (2.5W)	Normal (2W)	Low (1W)
リチウムイオン電池パック PMNN4536A	約 1 3 時間	約 1 4 時間	約 1 6 時間
アルカリ乾電池ケース HN001139A01	—	—	約 1 2 時間

※電池持続時間は、送信:受信:待受 = 5:5:90 の割合で運用時(バッテリーセーブ機能オン)

※使用条件や周囲の温度により、使用できる時間が異なることがあります(特に寒冷地では使用時間が短くなります)。

※アルカリ乾電池の製造元や種類によって、使用できる時間が大きく異なることがあります。

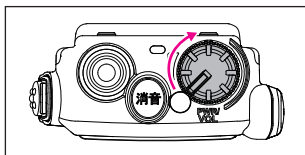
基本的な使い方

① 電源を入れます

[PWR/VOL] ツマミを右にまわすと、電源が入ります。

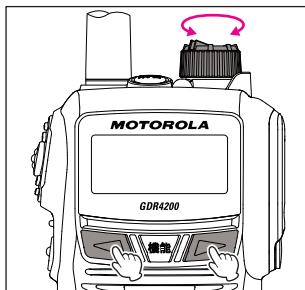
補足

ディスプレイに起動画面が約2秒間表示され、その後「ピポッ」と電子音が鳴り、チャンネル番号とユーザコードが表示されます。



② 音量を調節します

[PWR/VOL] ツマミを 10 ～ 11 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が必要な音量になるよう、[PWR/VOL] ツマミで調節します。



③ チャンネルをあわせませす

[◀] または [▶] キーを押して、CH01 ～ 30 の通話チャンネルから、相手と同じチャンネルに合わせませす (8 ページ参照)。

通話チャンネル

⇄ CH01 ⇄ CH02 … 呼出 CH(CH15) … CH29 ⇄ CH30 ⇄ CHS1* ⇄ CHS2* … CHS5* ⇄

※ CHS1 ～ 5 は上空用チャンネル(受信専用)です。セットモードの「S07 使用 CH」で「陸・海・空」に設定した場合に選択できます。

補足

“CH01”(または使用チャンネルに設定した最小CH)にあわせた時に「ピピピ」というピープ音が鳴ります。トランシーバーを腰につけている状態などで表示を確認しなくても、簡単にチャンネル選択をすることができます。

④ 送信 (通話) します

[PTT (通話)] ボタンを押しながら、マイクに向かって話します。

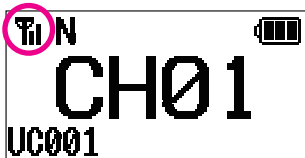
○キャリアセンス機能(29ページ参照)により混信している場合は送信できません。

○マイクと口元の間隔は、5cm位が適当で、普通の声で話します。マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声割れたり、歪むことがあります。

補足

○送信中は“**TiN**”(送信出力が“Normal”時)が表示され、LEDインジケーターが赤色に点灯します。

○送信出力は“H”(2.5W)、“N”(2W)、“L”(1W)に切り替えることができます(32ページ参照)。



補足

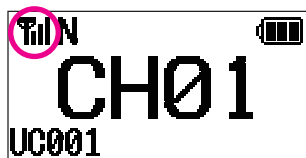
連続送信時間は5分未満と決められています。本機では送信を開始してから約4分50秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から5分が経過する前に、自動的に送信が止まります。(29ページ参照)

⑤ 相手の音声を受信します

[PTT(通話)] ボタンを放すと、相手の話を聞くことができます。

補足

信号を受信するとLEDインジケータが点滅し(11ページ参照)、電波の強さに応じて、ディスプレイに「 ~ 」が点灯します。

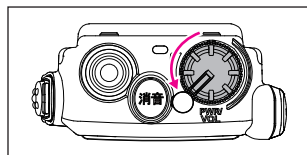


⑥ 電源を切ります

[PWR/VOL] ツマミを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。

補足

一週間以上使用しない場合は、電池/バックが消耗しないように、トランシーバーの電源を切り、トランシーバーから電池パックを外してください。



キーロック機能

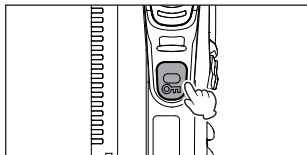
誤って各キーを押しても、設定が変わらないようにキーをロックする機能です。

① 本体側面の [] キーを長押しします。

② ディスプレイに約 1 秒間 “LOCK” が表示され  が点灯し、キーがロックされます。

補足

- [] キーを短押しするとバックライトが点灯します。
- キーロック中に各キーを押すと「ブプ」とビーブ音が鳴り、ディスプレイに再び 1 秒間 “LOCK” が表示されます。
- セットモードの「S13 キーロック」(45ページ参照) でロックするキーを変更することができます。



③ キーロックを解除するには再度、[] キーを長押しします。

通信方式について

GDR4200 は「UC (ユーザーコード) 通信」と「個別通信」の二通りの通信方式に対応しています。

初期値 (工場出荷時) は UC (ユーザーコード) 通信に設定されていますので、通信相手と同じ通信通話方式に設定してからご使用ください。

◎ UC (ユーザーコード) 通信 (20 ページ参照)

同じチャンネルで同じ UC を設定している局同士が通話できる通信方式

◎ 個別通信 (22 ページ参照)

同じチャンネルで同じ UC を設定している局の中で、特定の相手やグループだけを呼び出して通話できる通信方式

設定のリセットについて

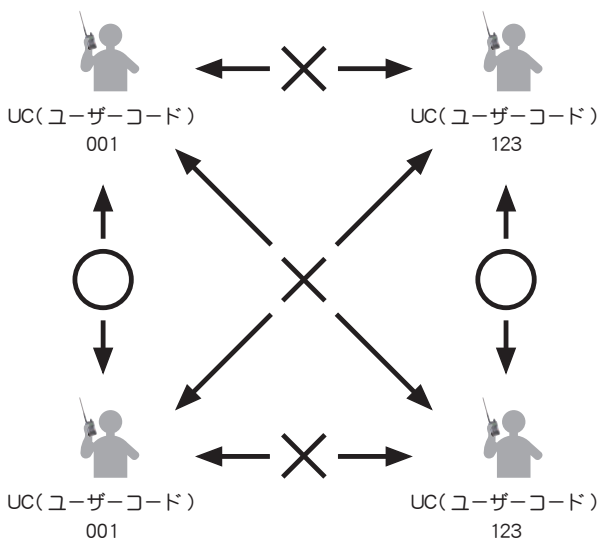
無線機の全ての設定を初期値 (工場出荷時) に戻すことができます。(43 ページ参照)

UC (ユーザーコード) 通信

UC 通信は同じチャンネルにあわせている局で、かつ同じ UC (ユーザーコード) を設定している局同士だけが通話することができる通信方式です。

UC 通信方式は、ARIB 規格で規定されており、種別コード「3R」の他社製デジタル簡易無線トランシーバーと通話互換があります。

ユーザーコード通信のイメージ



◎ ユーザーコードとは

ユーザーコードは3桁の数字で構成されていて、“000”～“511”の中から設定することができます。

補足

- ユーザーコード“000”は、共通ユーザーコードとして扱われ、受信時はコードが異なる信号も受信できますが、送信時は“000”を設定している相手としか通信することができません。
- 本機のUC(ユーザーコード)は、初期値では“000”に設定されています。
- 他ユーザーとの混信を避けるため、UC(ユーザーコード)は“000”以外に設定することをお勧めします。

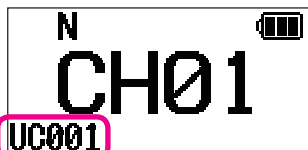
UC (ユーザーコード) 通信の設定方法

UC (ユーザーコード) 通信に使用するユーザーコードを“000”～“511”の中から設定します。ユーザーコードが異なる局とは交信することができませんので、必ず相手局と同じユーザーコードに設定してください。

なお、設定したユーザーコードは全てのチャンネルで共通です。

- ① 電源を入れて、相手局と同じチャンネルにあわせませす。
- ② ディスプレイ左下に表示されているユーザーコードが相手局すべてと同じになっていることを確認します。

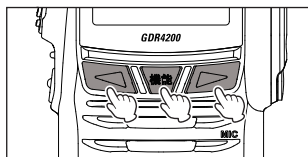
ユーザーコードの変更が必要ない場合は、以下の操作は不要です。



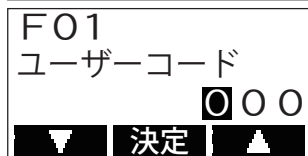
補足

ディスプレイの右下に“個別”、“グループ”または“ALL”が表示されている場合は個別通信方式になっています。あらかじめセットモード「S01 通信方式」(36ページ参照)で“UC通信”に設定してください。

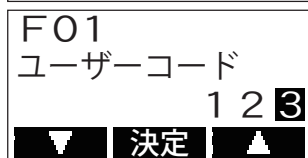
- ③ [機能] キーを長押しして“簡易メニュー”を表示させます。



- ④ 「F01 ユーザーコード」が表示されますので、[機能] (選択) キーを押します。
ユーザーコードの一番左の桁が点滅します。
- ⑤ [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して数字を選択します。



- ⑥ [機能] (決定) キーを押すと、ユーザーコードの点滅している桁が右に移動します。
④と⑤の操作を繰り返して3桁のユーザーコードを入力します。
- ⑦ 3桁目を設定して[機能] (決定) キーを押すと、「ププ」と電子音が鳴り、ユーザーコードが確定されます。



- ⑧ [PTT] ボタンを押すと、「プ」と電子音が鳴り、チャンネル表示に戻ります。

以上で UC (ユーザーコード) 通信の設定は終了です。

同じチャンネルで同じ UC に設定した局と通話することができます。(18 ページ参照)

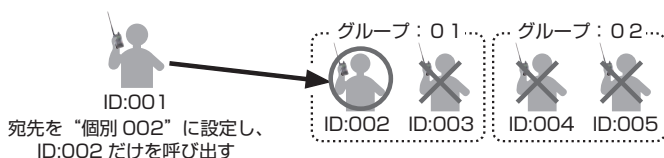
個別通信

個別通信とは、特定の相手だけを呼び出すことや特定のグループに属する全員を呼び出すこと、または全ての局を一斉に呼び出して通話をする事ができる通信方式です。さらに、グループ親機に設定した局は、全てのグループからの呼出を受けることができ、また、特定のグループを選択して呼び出すことができますので大変便利です。

この通信方式を利用するには各トランシーバーに個別のID番号（自局IDとグループID）を設定する必要があります。自局ID番号はセットモードの「S02 個別自局ID」（36 ページ参照）で設定します。自グループIDの設定方法は、「特定のグループに属する全員を呼び出す（グループ呼出）」（24 ページ参照）をご覧ください。

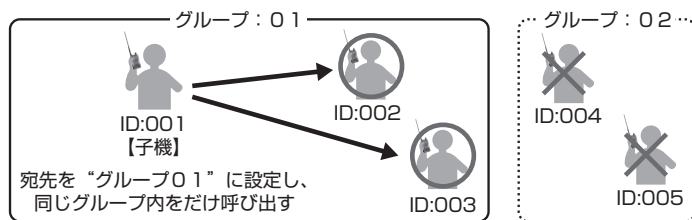
個別通信のイメージ

◎ 特定の相手だけを呼び出す（個別呼出）

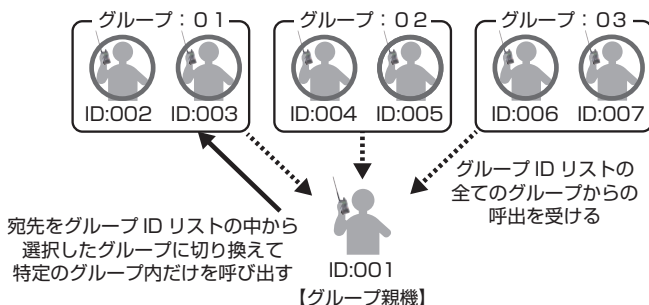


◎ 特定のグループに属する全員を呼び出す（グループ呼出）

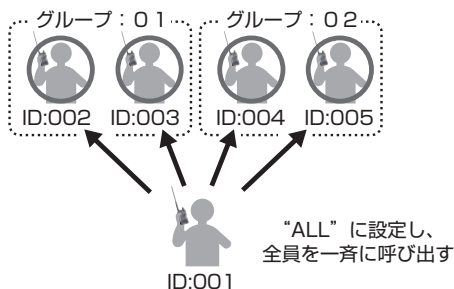
【グループ子機に設定した場合】



【グループ親機に設定した場合】

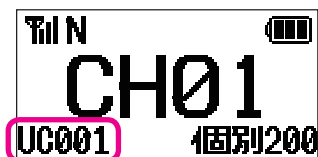


◎ 全員を一斉に呼び出す（一斉呼出 ALL）



個別通信の設定方法

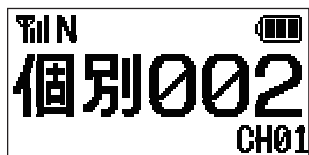
- ① 電源を入れて、相手局と同じチャンネルにあわせませす。
- ② ディスプレイ左下に表示されているユーザーコードが相手局すべてと同じになっていることを確認します。
ユーザーコードの変更が必要な場合は、「UC（ユーザーコード）通信の設定方法」（21ページ参照）を参照してください。



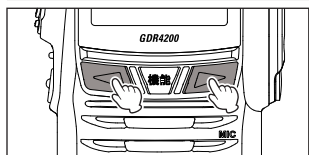
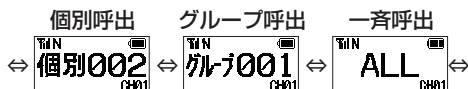
補足

ディスプレイの右下に“個別”、“グループ”または“ALL”が表示されていない場合はUC通信方式になっています。あらかじめセットモードの「S01 通信方式」（36ページ参照）で“個別通信”に設定してください。

- ③ [機能] キーを押して“宛先メニュー”を表示させます。



- ④ [◀] または [▶] キーを押して、希望する「呼び出し方法」を選びます。



- ⑤ [機能] キーを押すか、操作を止めて5秒後にチャンネル表示に戻ります。

以上で個別通信の設定は終了です。

個別通信の呼出方法（“個別呼出”、“グループ呼出”、“一斉呼出”）の設定については、次ページ以降を参照してください。

補足

宛先メニュー表示中に[PTT]ボタンを押して、通話を始めると通話を終了するまで“宛先メニュー”を表示し続けていますので、簡単に呼び出し方法を変更することができます。

補足

○相手からの応答がなく、応答待ち時間(5秒間)が経過すると、自動的に待機状態に戻ります。

○応答するタイミングは、応答待ち時間以内に行ってください。

○個別通信方式では、お互いに通話が終わった時からタイマーがスタートします。

個別通信の呼び出し方法の設定

特定の相手呼び出す(個別呼出)

呼び出したい特定の相手局の個別 ID を設定して、個別に呼び出します。

① [機能] キーを長押しして、“簡易メニュー”を表示させます。

② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して「F04 個別宛先 ID」を選び、[機能] (決定) キーを押します。個別宛先IDの一番左の桁が点滅します。



補足

宛先メニューの“個別呼出”画面(前ページ参照)を表示しているときに、[機能] キーを長押しすると、直接、簡易メニュー「F04 個別宛先 ID」を表示させて、呼び出したい“個別宛先ID”を簡単に設定することができます。

③ [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して希望の“個別宛先ID”を入力します。

④ [機能] (決定) キーを押します

個別宛先 ID の点滅している桁が右に移動します。

③と④の操作を繰り返して3桁の ID を入力します。

3桁目を設定して [機能] (決定) キーを押すと、「プブ」と電子音が鳴り、個別宛先IDが確定されます。

⑤ [PTT] ボタンを押します

「ブ」と電子音が鳴り、チャンネル表示に戻ります。

特定のグループに属する全員を呼び出す(グループ呼出)

同じグループ内に属する全員を呼び出します。

グループ呼出には、下記の二つの設定があります。

「グループ子機」

自グループからの呼び出しを受け、自グループの呼び出しができます。

「グループ親機」

グループ ID リストに登録したすべてのグループ ID からの呼び出しを受け、選択した特定のグループの呼び出しができます。

グループ呼出をおこなうためには、あらかじめ、グループ子機 / グループ親機の設定とグループ ID リストの設定が必要です。(次ページを参照)

グループ子機またはグループ親機の設定

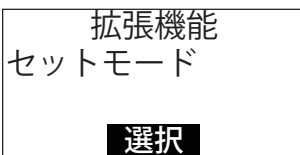
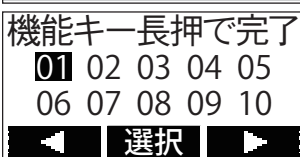
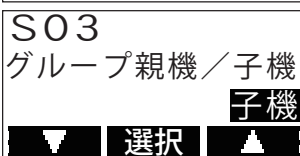
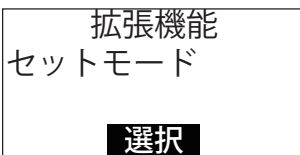
- ① 一度、電源を切って、[機能]キーを押しながら電源を入れ、セットモードを表示させます。
- ② [機能]キーを押して、セットモードに入ります。
- ③ [◀](▼)または[▶](▲)キーを押して、「S03 グループ親機 / 子機」を選び、[機能] (選択) キーを押します。
- ④ [◀]または[▶]キーを押して、“子機”または“親機”を選び、[機能] (決定) キーを押して確定させます。

グループ ID リストの設定

- ① セットモードで[◀](▼)または[▶](▲)キーを押して、「S04 グループ ID リスト」を選び、[機能] (選択) キーを押します。
- ② [◀]または[▶]キーを押して、グループ ID リストに追加したいグループ ID を選び、[機能] (選択) キーを押します。
複数のグループ ID を選択することができます。
- ③ [機能] (選択) キーを長押しして、グループ ID リストへの追加を完了させます。
- ④ 一度、電源を切って再び電源を入れ、チャンネル表示へ戻ります。

◎グループ子機に設定した場合の自グループの設定

- ① 一度、電源を切って、[機能]キーを押しながら電源を入れ、セットモードを表示させます。
- ② [機能]キーを押して、セットモードに入ります。
- ③ [◀](▼)または[▶](▲)キーを押して、「S05 自グループ ID」を選び、[機能] (選択) キーを押します。



- ④ [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して希望する“自グループID”を選択し、[機能] (選択) キーを押します。

セットモードの「S04 グループIDリスト」の設定 (25 ページ参照) でグループIDリストに追加したIDの中から1個を選択することができます。

- ⑤ 一度、電源を切って再び電源を入れ、チャンネル表示画面へ戻ります。

以上で、グループ子機に設定した場合の自グループの設定は終了です。

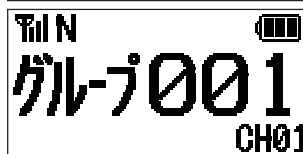
◎グループ親機に設定した場合のグループ呼び出し設定

- ① チャンネル表示画面で [機能] キーを押して“宛先メニュー”を表示させます。

(最後に設定した宛先 (個別、グループまたはALL) が表示されます。)

- ② [◀] または [▶] キーを押して、“宛先メニュー”の中から呼び出したいグループIDを選びます。

セットモードの「S04 グループIDリスト」の設定 (25 ページ参照) でグループIDリストに追加したIDの中から選択することができます。



※ 上記はグループIDリストにグループ01、グループ05、・・・、グループ30が追加されている例を示しています。

- ③ [機能] キーを押すか、操作を止めて5秒後にチャンネル表示に戻ります。

以上で、グループ親機に設定した場合のグループ呼び出し設定は終了です

補足

- 同時に複数のグループを呼び出すことはできません。
- “宛先メニュー”の表示中に[PTT]ボタンを押して通話を始めると、通話を終了するまで“宛先メニュー”を表示し続けますので、簡単に呼び出し方法を変更することができます。

グループ着信割り込み設定について

“グループ親機”に設定している場合にセットモード「S06 グループ着信割り込み」（37 ページ参照）でグループ着信割り込みを“許可”に設定すると、あるグループとの通話中（通話終了状態になる前）であっても、他のグループからの呼び出しを受ける（割り込み）ことができます。

割り込みを受けると自局のグループ呼出の宛先は、自動的に呼び出してきたグループ ID に切り替わり、[PTT] ボタンを押すだけでそのグループと通話することができます。

呼び出してきたグループとの通話が終了すると自動的に最後に選択していたグループ ID に戻ります。

全員を一斉に呼び出す（一斉呼出 ALL）

グループに関係なく全員を一斉（ALL）に呼び出します。

- ① [機能] キーを押して、“宛先メニュー”を表示させます。
- ② [◀] または [▶] キーを押して、「ALL」を選択します。
- ③ [機能] キーを押すか、操作を止めて 5 秒後にチャンネル表示に戻ります。

呼び出しを受けたとき

個別通信方式で呼び出しを受けると、相手局の ID と個別通信方式が表示されます。

○すぐに応答することができなかった場合“不在着信状態”となります。

○不在着信状態をキャンセルする場合は、[機能] キーを押してください。

個別呼び出しを受けたとき

ディスプレイに呼び出してきた相手局の個別 ID が表示されます。受信中は LED インジケーターが緑色または青色に点滅します。

すぐに応答できなかった場合は、“不在”が点滅し、“個別”と相手局の個別 ID が表示されます。応答する場合は、そのまま [PTT] ボタンを押すと相手呼び出します。

グループ呼び出しを受けたとき

ディスプレイに呼び出してきたグループ ID が表示されます。受信中は LED インジケーターが緑色または青色に点滅します。

すぐに応答できなかった場合は、“不在”が点滅し、“グループ”とグループ ID が表示がされます。応答する場合は、そのまま [PTT] ボタンを押すとそのグループを呼び出します。



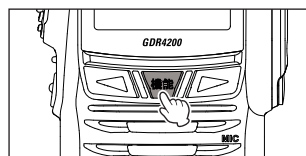
一斉呼び出し（ALL）を受けたとき

ディスプレイに、一斉呼び出しを示す“ALL”が表示されます。受信中はLEDインジケーターが緑色または青色に点滅します。
すぐに応答できなかった場合は、“不在”が点滅し、“ALL”が表示されます。応答する場合は、そのまま【PTT】ボタンを押すと一斉呼び出しをします。



簡易メニュー

【機能】キーを長押しして“簡易メニュー”を表示させて、通信中に使用するユーザーコードや秘話機能、個別宛先 ID、送信出力などの設定を行うことができます。



トランシーバーの設定や選択している通信チャンネルなどによって、簡易メニューの一部の項目が表示されない場合があります。

項 目	初期値	設定値	機 能
F01 ユーザーコード*	000	000 ~ 511	ユーザーコードを設定します (詳細は 20 ページ参照)
F02 秘話*	OFF	OFF/ON	秘話機能の ON/OFF を設定します (詳細は 33 ページ参照)
F03 秘話コード*	00001	00001 ~ 32767	秘話コードの設定をします (詳細は 33 ページ参照)
F04 個別宛先 ID	002	001 ~ 200	個別通信の個別宛先 ID を設定します (詳細は 24 ページ参照)
F05 個別自局 ID	001	(表示のみ)	個別通信の自局 ID を表示します (設定方法は 36 ページ参照)
F06 送信出力*	N	H/N/L	送信出力を設定します (詳細は 32 ページ参照) High(2.5W)/Normal(2W)/Low(1W)

○変更操作の途中で【消音】キーを押すと、変更操作をキャンセルして 1 つ前の状態に戻ります。【PTT】ボタンを押すと、変更操作をキャンセルして簡易メニューを抜けて CH 表示に戻ります。いずれの場合も設定値は保存されません。

※：S21 設定クローン（42 ページ参照）を行うとコピーされる項目です。

通信時に動作する機能について

キャリアセンス機能

基準値以上の強さの電波を受信している場合は、混信を防止するために、送信を禁止する機能です。

送信禁止時に[PTT]ボタンを押すと、ディスプレイに“BUSY”が表示され、「ビビピッ...ピビピッ...」と警告音を発し続け送信することができません。受信を示すLEDインジケータが消えてから送信を開始してください。

補足

“BUSY”の表示の状態で[PTT]ボタンを押し続けた場合、受信電波がなくなり次第、“BUSY”表示がチャンネル表示に切り替わり自動的に送信状態になります。

本機は、デジタル簡易トランシーバー登録局としてキャリアセンス機能を搭載しており、電波法および ARIB 規格により、送信ごとにキャリアセンスを行います。

通話中の「ピピピ」音（連続送信時間制限）

本機の連続送信時間は5分未満と決められています。本機では送信を開始してから約4分50秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から5分が経過する前に、自動的に送信が止まります。そのまま[PTT]ボタンを押し続けた場合、送信を開始してから5分間経過すると、その後1分間は送信禁止状態になります。

アラームが鳴った際は、速やかに送信を中止してください。

ヒートプロテクション（高温時の保護機能）

無線機が高温になっている場合に、[PTT]ボタンを押すとディスプレイに“HEAT”と表示され、自動的に送信出力が低下します。

さらに高温になった場合に、[PTT]ボタンを押すとディスプレイに“HEAT”と表示され、LEDインジケータが消灯し、「ビビピッ...ピビピッ...」と警告音を発し続け送信することができません。温度が低下してから送信を開始してください。

各種の便利な機能

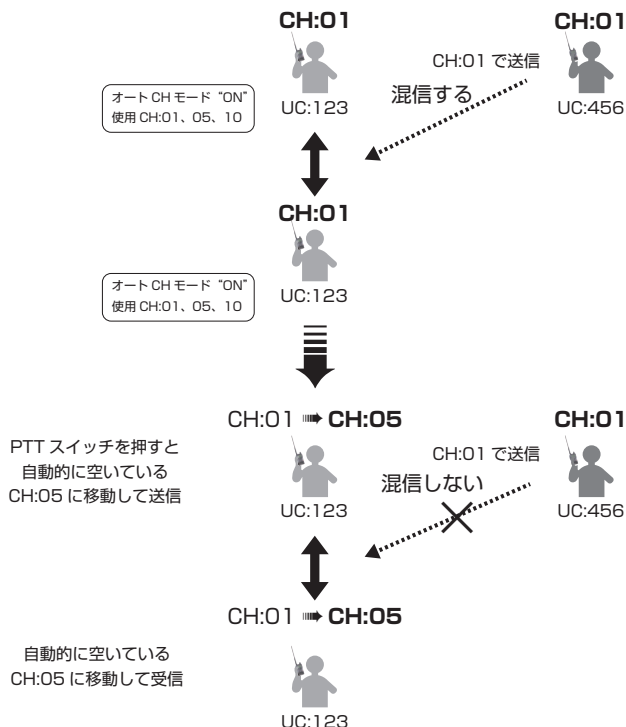
オートチャンネルモード

UC (ユーザーコード) 通信方式で、他局が使用しているチャンネル (混信) を避けて、他の空いているチャンネルに、自動的に移動して通話をする事ができる機能です。混信があったときにも煩わしい操作や相手への連絡などが不要で、すぐに空きチャンネルで通話を続けることができます。

この機能を利用するには通話を行う各トランシーバーに、セットモードの「S 07 使用 CH」(38 ページ参照) で同じ「使用チャンネル」を設定する必要があります。

オートチャンネルモードの動作イメージ

CH:01 に設定し、他のユーザーコード (例では UC:456) の混信を受けているときに、[PTT] ボタンを押すと使用 CH に登録されている中で、自動的に混信のないチャンネル (例では CH:05) に移動して送信します。受信側も同じユーザーコードの通信が行われているチャンネル (CH:05) に自動的に移動します。



オートチャンネルモードの設定方法

オートチャンネルモードで使用するチャンネル（使用 CH）の設定とオートチャンネルモードを“オン”にします。通話を行うすべてのトランシーバーを同様に設定してください。

- ① **[機能]** キーを押しながら、**[PWR/VOL]** ツマミを右にまわして電源を入れます。

[機能]（選択）キーを押してセットモードに入ります。

補足

オートチャンネルモードはUC通信でのみ使用できます。セットモードの「S01 通信方式」（36ページ参照）で“UC通信”に設定してください。

- ② **[◀]**（▼）または**[▶]**（▲）キーを押して「S07 使用 CH」を選択します。

- ③ **[機能]**（選択）キーを押します。

現在の使用 CH が点滅します。

- ④ **[◀]** または **[▶]** キーを押して“選択”を選びます。

- ⑤ **[機能]** キーを押します。

[◀] または **[▶]** キーを押して使用するチャンネルを選択し**[機能]**（選択）キーを押します。選択されたチャンネルは反転表示されます。

使用 CH は最大 5 チャンネルまで選択することができます。

- ⑥ **[機能]**（選択）キーを長押しして選択を完了します。

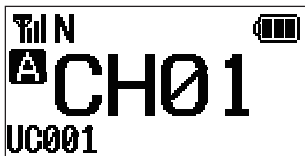
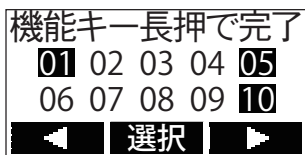
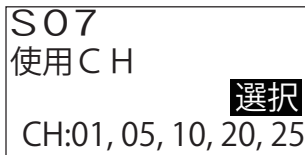
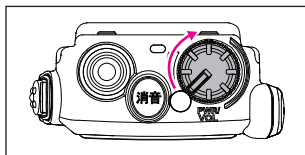
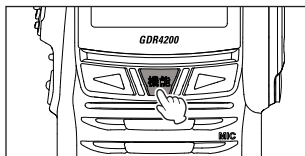
- ⑦ **[◀]**（▼）または**[▶]**（▲）キーを押して「S08 オート CH」を選択します。

- ⑧ **[機能]**（選択）キーを押します。

[◀] または **[▶]** キーを押して“ON”を選択します。

- ⑨ **[機能]**（決定）キーを押して選択を完了します。

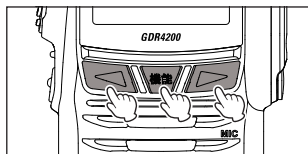
- ⑩ 一度電源を切って、入れ直すとディスプレイ左側に「A」が表示され、オートチャンネルモードが“オン”になります。



送信出力設定

送信出力を High(2.5W)/Normal(2W)/Low(1W) に切り換えることができます。相手との距離が近い場合などで送信出力を下げた電池パックの持続時間を延ばすことができます。なお、アルカリ乾電池ケース(HN001139A01)を使用している場合、送信出力は自動的に Low(1W) に固定され、この設定項目は表示されません。

- ① [機能] キーを長押しして“簡易メニュー”を表示させます。
- ② [◀](▼)または[▶](▲)キーを押して「F06 送信出力」を選択します。



- ③ [機能] (選択) キーを押します
- ④ [◀]または[▶]キーを押して“送信出力”を設定します。

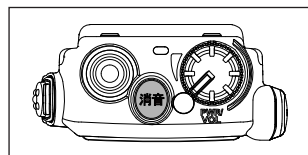


- H : High Power (2.5W 出力)
N : Normal Power (2W 出力)
L : Low Power (1 W出力)
- ⑤ [機能] (決定) キーを押すと、「ブプ」と電子音が鳴り、設定が確定されます。
 - ⑥ [PTT] ボタンを押します
「プ」と電子音が鳴り、チャンネル表示に戻ります。

ミュート (消音機能)

[PWR/VOL] ツマミをまわさずに [消音] キーを押すだけで、ワンタッチで音量をゼロにすることができます。もう一度押すとミュートは解除されます。

[消音] キーを押します。



ミュート中はディスプレイに“MUTE”と表示され、音量がゼロになります。



ミュートを解除するには再度、[消音] キーを押します。

他のキーを押しても解除できます。



セットモードの「S12 消音キー」(39ページ参照)を“モーメンタリ”に設定すると、[消音]キーを押している間だけ、音量をゼロにすることができます。

秘話通信機能

設定した 32,767 通りの秘話コードが一致するトランシーバー同士のみ交信することができる機能です。

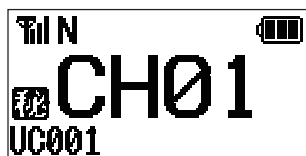
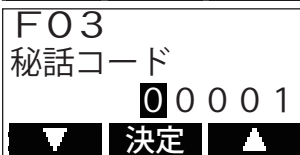
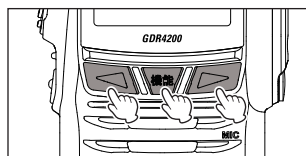
秘話機能を利用する際は、秘話コードの設定が必要です。秘話コードの初期値は“00001”に設定されています。ご使用の際に通話セキュリティを十分に確保するために、他の秘話コードに変更することをお勧めします。なお、秘話コードは全てのチャンネルで共通になります。

秘話通信を受信中は、LED インジケータが“青色”で点滅します。



チャンネルが“呼出CH(CH15)”のときは、秘話機能は無効になり、秘話機能の設定はできません。秘話機能を設定する場合は、他のチャンネルで行ってください。

- ① **[機能]** キーを長押しして“簡易メニュー”を表示させます。
- ② **[◀](▼)**または**[▶](▲)**キーを押して「F02 秘話」を選択します。
- ③ **[機能]** (選択) キーを押します
- ④ **[◀]**または**[▶]**キーを押して“ON”に設定します。
- ⑤ **[機能]** (決定) キーを押すと、「ブブ」と電子音が鳴り、設定が確定されます。
- ⑥ **[◀](▼)**または**[▶](▲)**キーを押して「F03 秘話コード」を選択します。
- ⑦ **[機能]** (選択) キーを押します。
秘話コードの一番左の桁が点滅します。
- ⑧ **[◀](▼)**または**[▶](▲)**キーを押して、“秘話コード”を入力します。
- ⑨ **[機能]** (決定) キーを押します
秘話コードの点滅している桁が右に移動します。⑧と⑨の操作を繰り返して5桁のコード入力します。
- ⑩ 5桁目を設定して**[機能]** (決定) キーを押すと、「ブブ」と電子音が鳴り、秘話コードが確定されます。
- ⑪ **[PTT]** ボタンを押します
「ブ」と電子音が鳴り、チャンネル表示に戻り、ディスプレイ左側に“秘”が表示され、秘話機能が“オン”になります。



通信の設定機能 ～セットモード～

トランシーバーの通信方式、各種 ID、各機能の設定を行うことができます。

項 目	初期値	設定値	機 能
S01 通信方式*	UC 通信	UC 通信 / 個別通信	通信方式の選択
S02 個別自局 ID	001	001 ~ 200	個別通信の自局 ID
S03 グループ親機 / 子機*	子機	親機 / 子機	個別通信のグループ呼出しの着信タイプ
S04 グループ ID リスト*	01	01 ~ 30	グループ呼出しに使用するグループ ID リスト
S05 自グループ ID *	01	S04 グループ ID リストで指定した ID から選択	個別通信時の自グループ ID 設定
S06 グループ着信割込み*	許可	許可 / 禁止	親機の通話中のグループ呼出し割込許可の設定
S07 使用 CH *	陸・海	陸・海 / 陸・海・空 / 選択	使用する CH 選択
S08 オート CH *	OFF	OFF/ON	オート CH モード設定
S09 内部マイク*	+3	-18 ~ -1,0,+1 ~ +18	内蔵マイクの感度設定
S10 外部マイク*	0	-18 ~ -1,0,+1 ~ +18	外部マイクの感度設定
S11 ノイズキャンセル*	ON	OFF/ON	ノイズキャンセルの設定
S12 消音キー*	トグル	トグル / モーメンタリ	消音キーの動作設定
S13 キーロック*	前面	前面 / 側面 / 前面 + 側面	ロック対象キー選択
S14 コード / 宛先表示*	ON	OFF/ON	UC と個別通信宛先の表示の設定
S15 ビープレベル*	Lv 08	Lv 00 ~ 15	ビープ音量設定
S16 TX ビープ*	OFF	OFF/ON	送信開始ビープ設定
S17 RX ビープ*	OFF	OFF/ON	相手局の送信終了ビープ
S18 バッテリーセーブ*	OFF	OFF/ON	間欠受信機能の設定
S19 弱電界アラーム *	OFF	OFF/ON	受信信号が弱い場合のアラーム設定
S20 電池残量警報 *	ON	OFF/ON	電池残量が少ない場合のアラーム設定
S21 設定クローン	---	送信 / 受信	設定をコピーする機能
S22 コントラスト*	Lv 08	Lv 00 ~ 15	表示のコントラスト
S23 ディマー*	Lv 08	Lv 00 ~ 15	バックライトの輝度
S24 設定リセット	---	---	全ての設定を初期値（工場出荷状態）にする
S25 CSM	---	---	CSM 表示
S26 Serial No.	---	---	Serial No. 表示

○セットモードの各項目の操作方法については、次ページ以降を参照してください。

○セットモードではバックライトが点灯し続けます。

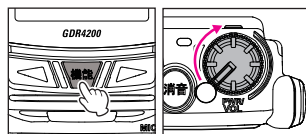
※：S21 設定クローン（42 ページ参照）を行うとコピーされる項目です。

セットモードの基本的な操作方法

セットモードの基本的な操作方法について説明します。

① セットモードを表示させます

[機能] キーを押しながら、[PWR/VOL] ツマミを右にまわして電源を入れます。



② セットモードに入ります

[機能] (選択) キーを押してセットモードに入ります。

拡張機能
セットモード

選択

③ 設定項目を選択します

[◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、設定したい設定項目を表示させます。

S01
通信方式
UC通信
▼ 選択 ▲

④ 設定項目に入ります

[機能] (選択) キーを押して設定項目に入ります。
設定値が点滅表示されます。

S01
通信方式
UC通信
◀ 決定 ▶

⑤ 設定値を変更します

[◀] または [▶] キーを押して設定値を変更します。変更操作について詳しくは、次ページ以降の各項目を参照してください。

※ [消音] キーを押すと変更操作をキャンセルして1つ前の状態に戻ります。

S01
通信方式
個別通信
◀ 決定 ▶

⑥ 設定値を確定します

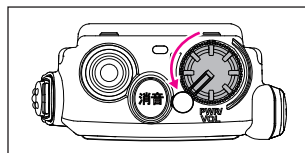
[機能] (決定) キーを押して設定値を確定します。

※ [機能] (決定) キーを押さずに電源を切ると変更操作をキャンセルすることができます。

S01
通信方式
個別通信
▼ 選択 ▲

⑦ セットモードを終了します

[PWR/VOL] ツマミを「カチッ」と音がするまで左にまわし切って電源を切ります。



S01 通信方式

UC 通信方式と個別通信方式を切り換えることができます。

- ① **[機能]** キー + 電源オン (セットモード) ➡ **[機能]** (選択) キー ➡ 「S01 通信方式」を選択 ➡ **[機能]** (選択) キー
- ② **[◀]** または **[▶]** キーを押して、希望の通信方式を選択します。

UC 通信 (初期値)	UC 通信方式で運用するとき
個別通信	個別通信方式で運用するとき

- ③ **[機能]** (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S02 個別自局 ID

個別通信に使用する自局 ID を設定することができます。

※この項目は「S01 通信方式」が“個別通信”のときに設定できます。

- ① **[機能]** キー + 電源オン (セットモード) ➡ **[機能]** (選択) キー ➡ 「S02 個別自局 ID」を選択 ➡ **[機能]** (選択) キー
- ② **[◀]** (▼) または **[▶]** (▲) キーを押して、自局の ID を 1 桁ずつ入力します。

001 (初期値) ~ 200	個別通信に使用する自局 ID
-----------------	----------------

- ③ **[機能]** (決定) キーを押します。
- ④ 操作②と操作③を繰り返して 3 桁を入力し、**[機能]** (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S03 グループ親機 / 子機

個別通信のグループ呼出時の着信動作を選択することができます。

※この項目は「S01 通信方式」が“個別通信”のときに設定できます。

- ① **[機能]** キー + 電源オン (セットモード) ➡ **[機能]** (選択) キー ➡ 「S03 グループ親機 / 子機」を選択 ➡ **[機能]** (選択) キー
- ② **[◀]** または **[▶]** キーを押して、設定を選択します。

子機 (初期値)	「S05 自グループ ID」に設定した自グループ ID からの呼出を受け、通話が可能
親機	「S04 グループ ID リスト」に設定した全てグループからの呼出を受け、特定のグループと通話が可能

- ③ **[機能]** (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S04 グループ ID リスト

個別通信のグループ呼出に使用するグループ ID を選択することができます。

※この項目は「S01 通信方式」が“個別通信”のときに設定できます。

- ① **[機能]** キー + 電源オン (セットモード) ➡ **[機能]** (選択) キー ➡ 「S04 グループ ID リスト」を選択 ➡ **[機能]** (選択) キー

- ② [◀] または [▶] キーを押して、希望するグループ ID を選びます。

01 ~ 30 (初期値は 01 のみ 選択)	個別通信のグループ呼出に使用するグループ ID (最大 30 までの複数のグループが選択ができます)
-----------------------------------	---

- ③ [機能] (設定) キーを押すとグループ ID が選択され反転表示されます。

複数のグループ ID を選択する場合は、操作②と③を繰り返します。

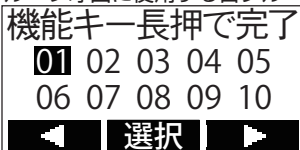
- ④ [機能] (決定) キーを長押しするとグループ ID 設定が確定します。

その後電源を切ると設定は完了です。

S05 自グループ ID

グループ子機に設定しているときに、個別通信のグループ呼出に使用する自グループ ID を選択することができます。

- ※ この項目は「S01 通信方式」が“個別通信”、かつ「S03 グループ親機 / 子機」が“子機”のときに設定できます。



- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡

[機能] (選択) キー ➡ 「S05 自グループ ID」を選択 ➡ [機能] (選択) キー

- ② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、希望の自グループ ID を選択します。

「S04 グループ ID リスト」	個別通信のグループ呼出 (自局をグループ子機に で設定したグループ ID 設定している時) に使用する自グループ ID
-------------------	--

- ③ [機能] (決定) キーを押します。

その後電源を切ると設定は完了です。

S06 グループ着信割込み

グループ親機に設定している場合、通話中に他のグループからの呼出 (着信割込み) を許可することができます。

- ※ この項目は「S01 通信方式」が“個別通信”、かつ「S03 グループ親機 / 子機」が“親機”のときに設定できます。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡

「S06 グループ着信割込み」を選択 ➡ [機能] (選択) キー

- ② [◀] または [▶] キーを押して、希望の設定を選択します。

許可 (初期値)	通話中に他グループから呼出 (着信割込み) を許可
禁止	通話中に他グループから呼出 (着信割込み) を禁止

- ③ [機能] (決定) キーを押します。

その後電源を切ると設定は完了です。

S07 使用 CH

使用するチャンネルを選択することができます。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡

[機能] (選択) キー ➡ 「S07 使用 CH」を選択 ➡ [機能] (選択) キー

- ② [◀] または [▶] キーを押して、使用するチャンネルを選択します。

陸・海 (初期値)	陸・海の CH01 ~ 30 が使用できます
陸・海・空	陸・海の CH01 ~ 30 と上空 CHS1 ~ 5 (モニター専用) が使用できます
選択	陸・海の CH01 ~ 30 から最大 5 チャンネルを選択して使用できます (呼出 CH (CH15) および上空 CHS1 ~ 5 は選択できません) 選択したチャンネルは通常のチャンネル選択のほか、オートチャンネルモード (30 ページ参照) で使用します

- ③ “選択” を選んだ場合

もう一度 [機能] キーを押して、使用するチャンネル番号を個別に選択 (初期値: CH01、CH05、CH10、CH20、CH25) できます。

- (1) [◀] または [▶] キーを押してチャンネル番号がを選びます。

- (2) [機能] (選択) キーを押すとチャンネル番号が選択されて反転表示されます。最大 5 チャンネルまで選択できます。

- (3) [機能] (決定) キーを長押しします。

- ④ [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。



S08 オート CH

オートチャンネルモード (30 ページ参照) のオン/オフを設定します。

※ この項目は「S01 通信方式」が「UC 通信」かつ「S07 使用 CH」が「選択」(2CH 以上選択時) のときに設定できます。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡

「S08 オート CH」を選択 ➡ [機能] (選択) キー

- ② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン/オフを選択します。

OFF (初期値)	オートチャンネルモードを OFF にします
ON	オートチャンネルモードを ON にします

- ③ [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S09 内部マイク

トランシーバーに内蔵しているマイクの感度を調節します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S09 内部マイク」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、内蔵マイクの感度を設定します。
-18 ~ +18 (初期値 : +3) 内蔵マイクの感度
- ③ [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S10 外部マイク

アクセサリの外部マイクの感度を調節します。

- [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S10 外部マイク」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ① [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、外部マイクの感度を調節します。
-18 ~ +18 (初期値 : 0) 外部マイクの感度
 - ② [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S11 ノイズキャンセル

ノイズキャンセル機能のオン/オフを設定します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S11 ノイズキャンセル」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン/オフを設定します。

ON (初期値)	ノイズキャンセル機能を ON にします
OFF	ノイズキャンセル機能を OFF にします
- ③ [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S12 消音キー

消音キーを押したときの動作を切り換えることができます。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S12 消音キー」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] または [▶] キーを押して、希望の動作を選択します。

トグル (初期値)	消音キーを押すと音量がゼロになり、もう一度押すとミュートが解除されます。
モーメンタリ	消音キーを押している間だけ音量がゼロになり、キーを放すとミュートが解除されます。
- ③ [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S13 キーロック

キーロック時にロックするキーを選択することができます。

- ① **[機能]** キー + 電源オン (セットモード) ➡ **[機能]** (選択) キー ➡
「S13 キーロック」を選択 ➡ **[機能]** (選択) キー
- ② **[◀]** または **[▶]** キーを押して、希望の動作を設定します。

前面 (初期値)	[機能] キー、 [◀] キー、 [▶] キー
側面	[PTT] ボタン
前面 + 側面	[機能] キー、 [◀] キー、 [▶] キー、 [PTT] ボタン

- ③ **[機能]** (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S14 コード / 宛先表示

ディスプレイ下部に表示される UC コードや宛先の表示のオン / オフを設定します。

- ① **[機能]** キー + 電源オン (セットモード) ➡ **[機能]** (選択) キー ➡
「S14 コード / 宛先表示」を選択 ➡ **[機能]** (選択) キー
- ② **[◀]** または **[▶]** キーを押して、表示のオン / オフを選択します。

ON (初期値)	UC コードや宛先を表示します
OFF	UC コードや宛先を表示しません

- ③ **[機能]** (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S15 ビープレベル

ビープ音の音量を設定します。

- ① **[機能]** キー + 電源オン (セットモード) ➡ **[機能]** (選択) キー ➡
「S15 ビープレベル」を選択 ➡ **[機能]** (選択) キー
- ② **[◀]** (▼) または **[▶]** (▲) キーを押して、音量を設定します。

Lv00 ~ 15 (初期値 08)	ビープ音の音量
--------------------	---------

- ③ **[機能]** (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S16 TX ビープ

自局の送信開始のビープ機能のオン / オフを設定します。

- ① **[機能]** キー + 電源オン (セットモード) ➡ **[機能]** (選択) キー ➡
「S16 TX ビープ」を選択 ➡ **[機能]** (選択) キー
- ② **[◀]** または **[▶]** キーを押して、機能のオン / オフを設定します。

オフ (初期値)	自局の送信開始時のビープを OFF にします
オン	自局の送信開始時のビープを ON にします

- ③ **[機能]** (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S17 RX ビープ

相手局の送信終了を知らせるビープ機能のオン / オフを設定します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S17 RX ビープ」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン / オフを選択します。

オフ (初期値)	相手局の送信終了時のビープを OFF にします
オン	相手局の送信終了時のビープを ON にします

- ③ [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S18 バッテリーセーブ

待ち受け状態で電池の消耗を防ぐバッテリーセーブ (間欠受信) 機能のオン / オフを設定します。

※ この項目は「S01 通信方式」が「UC 通信」、かつ「S08 オート CH」が「OFF」のときに設定できます。(それ以外の場合はバッテリーセーブ機能は自動的に「OFF」になります。)

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S18 バッテリーセーブ」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン / オフを選択します。

OFF (初期値)	バッテリーセーブ機能を OFF にします
ON	バッテリーセーブ機能を ON にします

- ③ [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S19 弱電界アラーム

受信信号が微弱になったことを知らせるアラーム機能のオン / オフを設定します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S19 弱電界アラーム」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン / オフを選択します。

OFF (初期値)	弱電界アラーム機能を OFF にします
ON	弱電界アラーム機能を ON にします

- ③ [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S20 電池残量警報

バッテリー残量が少なくなったことを知らせるアラーム機能のオン / オフを設定します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S20 電池残量警報」を選択 ➡ [機能] (選択) キー

- ② [◀] または [▶] キーを押して、機能のオン / オフを選択します。

ON (初期値)	電池残量アラーム機能を ON にします
OFF	電池残量アラーム機能を OFF にします

- ③ [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S21 設定クローン

GDR4200 同士でトランシーバーの各種設定を電波を使ってクローン (コピー) する機能です。1 台から複数の GDR4200 へ同時に短時間でクローンすることができます。

- ① クローンするすべての GDR4200 のチャンネルをあらかじめ合わせておきます。
クローンするトランシーバー同士は、できるだけ近くに置いて電波を安定して受信できる状態にしてください。混信やノイズの影響を受けている場合は、設定クローンがうまくできないことがあります。

補足

- 呼出CH (CH15) および上空CHS1~CHS5では、設定クローンを行うことはできません。他のチャンネルで行ってください。
- クローンされる項目は簡易メニュー (28ページ参照) とセットモード (34ページ参照) の一覧を参照してください。

- ② [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S21 設定クローン」を選択 ➡ [機能] (選択) キー

- ③ [◀] または [▶] キーを押して、1 台のみ “送信” を選択、その他は “受信” を選択します。

送信	この無線機の各種設定を送信します
受信	他の無線機から各種設定を受信します

- ④ 受信させる全ての GDR4200 で [機能] キーを押し “受信中” が点滅している状態にします。

- ⑤ 送信する GDR4200 で [機能] キーを押して送信にします。(クローンの送信時間は約 2 秒間です)

- ⑥ 正常に受信をした場合は GDR4200 の画面には “変更しますか?” と表示されます。

変更する場合は [機能] (決定) キーを押します。
キャンセルする場合は [消音] キーを押します。

- ⑦ 送信側の GDR4200 の電源を切ります。

S21
設定クローン
UC 000 **送信**
秘話 00001

S21
設定クローン **受信**

S21
UC 000
秘話 00001
変更しますか?

S22 コントラスト

ディスプレイ表示のコントラストを調節します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S22 コントラスト」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、表示のコントラストを調節します。

Lv00 ~ 15 (初期値 08) | ディスプレイ表示のコントラスト
- ③ [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S23 ディマー

ディスプレイと各キーのバックライトの明るさを調節します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S23 ディマー」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② [◀] (▼) または [▶] (▲) キーを押して、バックライトの明るさを調節します。

Lv00 ~ 15 (初期値 08) | ディスプレイと各キーのバックライトの明るさ
- ③ [機能] (決定) キーを押します。
その後電源を切ると設定は完了です。

S24 設定リセット

無線機のすべての設定を初期値 (工場出荷時) に戻します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S24 設定リセット」を選択 ➡ [機能] (選択) キー
- ② “設定をリセットしますか?” と表示されます。
[機能] (決定) キーを押してリセットします。
キャンセルする場合は [消音] キーを押します。
- ③ リセットすると “初期化完了” と表示され、すぐにセットモード画面に戻ります。

S24

設定リセット
リセットしますか?

決定

S25 CSM

CSM 番号を表示します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S25 CSM」を選択
- ② ディスプレイに CSM が表示されます。(CSM を変更することはできません。)

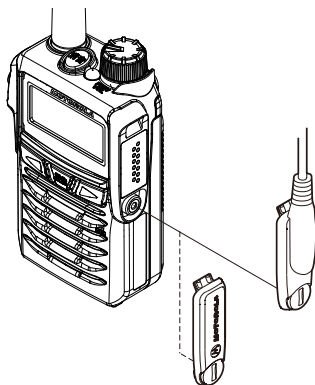
S26 Serial No.

シリアル番号を表示します。

- ① [機能] キー + 電源オン (セットモード) ➡ [機能] (選択) キー ➡ 「S26 Serial No.」を選択
- ② ディスプレイにシリアル番号が表示されます。(シリアル番号を変更することはできません。)

アクセサリの取り付け

アクセサリコネクタ部分に取り付けられているダストカバーを外し、アクセサリを取り付けます。



注意

アクセサリ類は、トランシーバーの電源を切った状態で取り付けてください。

補足

○アクセサリコネクタやアクセサリの端子を時々乾いた布や綿棒で拭いてください。端子が汚れていると、接触不良になって、正しく使用できなくなります。

○アクセサリ類を接続しないときは、アクセサリコネクタ部分にダストカバーを取り付けておいてください。

◎外部マイクの感度について

セットモードの「S10 外部マイク」（39 ページ参照）で、マイク感度を調節することができます。

故障かなと？と思う前に

間違った操作をしていませんか？修理を依頼される前に、お確かめください。

◎ 電源が入らない！

- ・電池パックが消耗していませんか？
➡ 電池パックを充電してください。
- ・電池パックの端子が接触不良になっていませんか？
➡ 端子を乾いた布で拭いてください。
- ・電池パックが古くなっていませんか？
➡ 電池パックの寿命です。新しい電池パックとお取り替えてください。

◎ 送信できない！

- ・PTT スイッチを正しく押していますか？
- ・上空用チャンネルになっていませんか？
➡ “CHS1” ～ “CHS5” の上空チャンネルは、受信専用（モニターのみ）で送信することはできません。
- ・ディスプレイに “BUSY” と表示されていませんか？
➡ 基準値以上の強さの電波を受信してるため、混信を防ぐキャリアセンス機能により送信が禁止されています。信号が無くなってから送信するか、混信のないチャンネルに切り換えてください。

◎ 音がでない！

- ・音量が下がっていませんか？
➡ [PWR/VOL] ツマミを 10 ～ 11 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が最適な音量になるよう、[PWR/VOL] ツマミで調節します。
- ・消音（ミュート）機能が「オン」になっていませんか？
- ・ディスプレイに “MUTE” と表示されていませんか？
➡ [消音] キーを押して、消音（ミュート）機能を「オフ」にします。

◎ 通話できない！

- ・相手局と同じチャンネルに設定していますか？
- ・相手局との距離が離れすぎていませんか？
- ・相手局と同じ通信方式に設定していますか？
- ・相手局と同じユーザーコードに設定していますか？
- ・秘話通信機能が動作していませんか？
➡ お互いに秘話通信機能を動作させ、更に秘話コードが一致していないと、交信することはできません。

◎ キー操作ができない！

- ・ディスプレイに “On” が表示されていませんか？
➡ [On] キーを長押ししてキーロックを解除してください。

定格

一般

送受信周波数：	デジタル簡易無線登録局 (6.25kHz 間隔、30 波) 351.20000MHz ~ 351.38125MHz 上空用チャンネル (6.25kHz 間隔、5 波) 351.16875MHz ~ 351.19375MHz(モニターのみ可)
電波型式：	F1C/F1D/F1E/F1F
通信方式：	単信プレストーク式
電池持続時間：	リチウムイオン電池パック PMNN4536A、2.5W 出力時 セーブ機能オフ時：約 10 時間 セーブ機能オン時：約 13 時間
電源電圧：	DC3.7V ± 10%
温湿度範囲：	温度 -20℃ ~ +60℃ 湿度 95% (35℃)
本体寸法：	高さ 88mm × 幅 54mm × 奥行き 29.2mm ※突起部を含まず
重量：	約 185g (PMNN4536A、アンテナ、ダストカバーを含む)

送信部

空中線電力：	2.5W/2.0W/1W (+20%、-50% 以内)
空中線インピーダンス：	50 Ω 不平衡
発振方式：	水晶発振制御による周波数シンセサイザ方式
周波数許容偏差：	± 1.5ppm 以内
変調方式：	4 値 FSK
占有周波数帯域幅：	5.8kHz 以下
最大周波数偏移：	± 1324Hz 以内
隣接チャンネル漏洩電力：	-52dB 以下 (2.5W 時)
スプリアス発射：	2.5 μ W 以下
不要輻射：	2.5 μ W 以下
標準変調入力：	-44dBm ± 5dB
変調入力インピーダンス：	600 Ω

受信部

受信方式：	ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数：	第 1:50.85MHz、第 2:450kHz
局部発振周波数：	第 1: 受信周波数 -50.85MHz、第 2:50.4MHz
局発周波数変動：	± 1.5ppm 以内
受信感度：	2dB μ V 以下 (BER=1%)
スプリアスレスポンス：	53dB 以上 (BER=1%)
隣接チャンネル選択度：	6.25kHz 42dB 以上 (BER=1%)
相互変調特性：	53dB 以上 (± 12.5kHz、± 25kHz) (BER=1%)
低周波出力：	0.5W 以上 (10% 歪時)
低周波出力インピーダンス：	8 Ω
副次的に発する電波等の強度：	4nW 以下

索引

記号	グループ親機.....24	通話中の「ビビビ」音.....29
◀ / ▶ ボタン.....11	グループ親機に設定した場合の グループ呼び出し設定.....26	て
アルファベット	グループ子機または グループ親機の設定.....25	ディスプレイ.....12
A	グループ子機.....24	電界強度表示.....12
ALL.....23, 27, 28	グループ子機に設定した場合の 自グループの設定.....25	電池残量表示.....17
L	グループ着信割り込み 設定について.....27	電池の消耗について.....17
LCD ディスプレイ.....12	グループ呼出.....22, 24	電池/バック残量表示.....12
LED インジケータ.....11	グループ呼出表示.....13	ひ
P	グループ呼び出しを受けたとき.....27	ヒートプロテクション.....29
PTT (通話) ボタン.....11, 18	こ	表示部.....12
PWR/VOL ツマミ.....10	構成部品.....9	秘話通話機能.....33
U	コールドチャンネル.....8	秘話表示.....13
UC (ユーザーコード) 通信.....20	個別通信.....22	ふ
UC (ユーザーコード) 通信の 設定方法.....21	個別通信の設定方法.....23	不在着信.....27
UC (ユーザーコード) 表示.....13	個別通信の呼び出し方法の設定.....24	不在表示.....13
かな	個別呼出.....22, 24	へ
あ	個別呼出表示.....13	ベルトクリップの取り付け.....14
アクセサリコネクタ端子.....11	個別呼び出しを受けたとき.....27	ほ
宛先メニュー.....23, 26	し	防水性について.....7
アルカリ乾電池ケースの使い方.....17	自グループ.....25	ま
安全上のご注意.....3	消音機能.....32	マイク.....11
アンテナコネクタ.....10	消音ボタン.....10	み
アンテナの取り付け.....14	上空用チャンネルモニター.....8	ミュート.....32
い	上空用チャンネル表示.....13	ゆ
一斉呼出 (ALL).....13, 23, 27	初期化.....43	UC (ユーザーコード) 通信.....20
一斉呼び出し (ALL) を受けたとき28	す	UC (ユーザーコード) 通信の 設定方法.....21
お	スピーカー.....11	UC (ユーザーコード) 表示.....13
オートチャンネルモード.....12, 30	せ	よ
オートチャンネルモードの設定方法31	設定リセット.....43	呼び出しを受けたとき.....27
か	セットモード.....34	り
各種の便利な機能.....30	セットモードの基本的な操作方法35	リチウムイオン電池/バックの リサイクルについて.....9
各部の名前と機能.....10	そ	リセット.....43
簡易メニュー.....28, 29	送信出力設定.....32	リチウムイオン電池/バック11, 15, 16, 17
乾電池ケース.....17	送信出力表示.....12	リチウムイオン電池/バックの 充電方法.....16
き	ち	リチウムイオン電池/バックを 取り付ける.....15
キーロック機能.....19	チャンネル構成.....8	リチウムイオン電池/バックを 取り外す.....15
キーロック表示.....12	つ	れ
キーロックボタン.....11	通信時に動作する機能に関して.....29	連続送信時間制限.....18, 29
機能ボタン.....11	通信の設定機能 ~セットモード~34	
基本的な使い方.....18	通信方式について.....19	
く		
グループIDリストの設定.....25		



MOTOROLA SOLUTIONS

モトローラ製品のお問い合わせ 0120-187-300

http://www.motorolasolutions.com/ja_jp.html

仕様は改良等のため、予告なしに変更することがあります。

モトローラ、MOTOROLA、MOTO、MOTOROLA SOLUTIONS およびモトローラのロゴマークは Motorola Trademark Holdings, LLC. の登録商標であり、そのライセンスに基づき使用しています。文中に記載されている他の製品名やサービス名等は、各社の商標または登録商標です。

©Motorola Solutions, Inc. 2016. All rights reserved.

正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがご購入いただいた販売店または、下記までご相談ください。

取扱説明書の記載内容を予告無く変更する場合があります。

販売元

八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル

TEL : 03-6711-4055

発行

モトローラ・ソリューションズ株式会社 PCR 事業部

〒108-0023 東京都港区芝浦 4-6-8 田町ファーストビル